

音丸耕堂 「彫漆色紙筥 昆虫譜」昭和13年（1938） 縦31.0×横27.5×高6.0cm

面取り、隅切りをした被せ蓋造りの色紙箱で、色漆を塗り重ねて文様を彫り表す彫漆技法により様々な草花や昆虫を表現しています。

元来、漆の色彩は、天然顔料による朱、黒、黄、緑、褐色に限定されていましたが、耕堂は、いち早く新材料のレーキ顔料を取り入れ、かつてないほど豊富な色彩表現の領域を広げ、画期的な漆の色彩の革命をもたらしました。この「彫漆色紙筥」は、その出発点となった記念碑的作品です。この作品は、吉田堯運氏（丸亀市）が所蔵していたものをご遺族の方からご寄贈いただきました。



磯井如真 「蒟醬 喰籠 遊禽之図」昭和33年（1958） 径12.5×高13.6cm

磯井如真は、昭和33年3月1日、宮内庁に「蒟醬 草花文 喰籠」を納めていますが、この作品はその代替品として並行して制作されました。

甲を丸くとした器胎の素地は、檜材を八角に組み合わせて積み木状に積み重ねた素地を内側から削り出しており、底部には竹網代をはめ込んで固定しています。黒の地に朱の線彫り蒟醬で、蓋には飛翔する鳳凰を、器胎全面に草花文を配置し、その輪郭線を丸剣彫りで、細部は角剣を用いて使い分けています。

この作品は、松崎剛氏（高松市）が所蔵していたものをご遺族の方からご寄贈いただきました。

